

風が吹き抜けると

懐かしさが目を覚ます

夢追人

(株)中村

社長 中村彰義さん

懐かしく、心温まる和の空間。モダンな暮らしの中で和を楽しみたいとの思いに駆られることがある。

洋風の暮らしになれてしまったので、和風のインテリアはとてむむずかしく思える。でも手軽の試せる和の素材がある。自然素材の和紙を使った壁紙だ。

この壁紙を扱っているのは、全国でたった3社だけ。その一つが当会議所会員の(株)中村である。社長の中村彰義さんにお話をうかがってみた。

(株)中村が扱う壁紙は、「越前和紙壁紙 絵鼓」と銘打たれている。1500年の歴史を誇る越前・福井の伝統的な手すき和紙でできている。懐かしい風情が漂う。

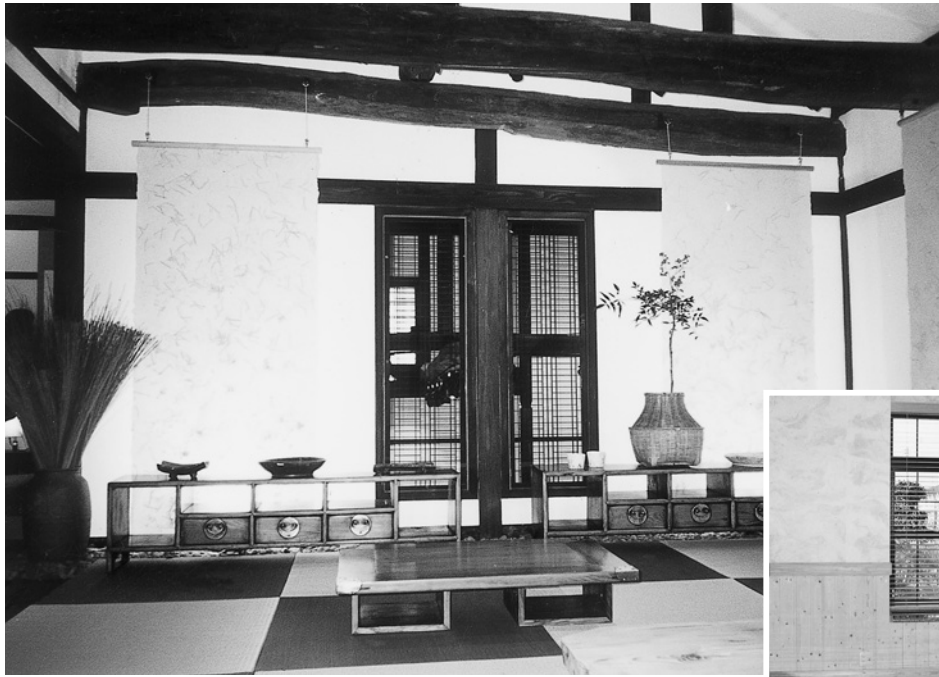
中村さんがおもしろいことを語ってくださった。「この自然素材を使うと夫婦ゲンカが少なくなるとのデータがあるんですよ。子供の坎もなくなりませ。」

「エーと不思議に思った。明確な因果関係はわからないが、そうした確かな傾向があるそうだから。和紙を使った懐かしい空間は、人の心をなごやかにするのだから。ストレスの多い時代にあつて実にふさわしい素材である。」

商品名の「絵鼓」はもちろんエコージョーの「エコ」に引っかけたもの。この点はどうなのだろう。「ビニールや洋紙と違って和紙は生きた素材です。いつも空気を吸ったり吐いたりと呼吸をしています。そのため室内の湿度をコントロールして空気を浄化さ

自然素材の和紙を使った壁紙





せませす。全くの天然素材なので土に帰ることになります。また和紙はガンビ、コウゾ、ミツマタを使いますが、それらは年に2回芽を採集します。でもそれらはすぐに再生し、また使用できるのです。その意味でも地球に負荷をかけません。」

それに和紙には驚くべき特性がある。何だろうか。耐久性である。それも半端ではない。

たとえば、正倉院の和紙(702年)は今でも元気に残っている。布は古びていくが…。すごい素材である。

3年前に「越前和紙壁紙 絵鼓Ⅰ」を発表した。52のパターンがあった。中村さんの希望はできるだけ早い時期に絵鼓Ⅱを

出すことである。そのためにはいくらかクリアしなければならぬ点があるそうだ。「一つは価格です。実のところ、価格は高いのですが、高いとのイメージが先入観としてあるようです。それを払拭しなければなりません。それに、この商品は20から40代の女性コディネーターたちからかなりの支持を得ていますが、今後はもっと全国の設計士たちにもっとPRしていく必要があります。」

インタビューが終わって、和紙を使った空間が魅力的に思えた。風が吹き抜けると懐かしさが目を覚ますような部屋に住んでみたい。

